

戦争と平和

今年も師走を迎えました。振り返ると一年中、世界各地で紛争が起きていた年でした。ロシアの侵攻は昨年から引き続き、四月にはスーダンの内紛、最近

の考え方の特色があります。つまり、仏教では、「正義にこだわるな」と、私たちに教えているのです。

私たちは、ときに他人と対立し、争うことがあります。相手に非があり、相手がどう

考えても悪いと思われる時があり、自分のところは落ち着きません。自分の正義を主張すればするほどイライラしてしま

います。それが「阿修羅」の姿なのです。阿修羅は正義の神で

すから、その主張は正しいので

すが、仏教においては、魔類です。私たちが「阿修羅」になつていけば、心の平安がないのは当然です。そこで一刻も早く阿修羅の姿ではなく、心が平安になるにはどうすればいいのでしょうか。私たちが正義にこだわることをやめて、相手にほんの少しだけいたわりの気持ちを持つことでしよう。怒りを消し去ることは、所詮不可能です。怒りそのものはそのままにして、なにか一言、相手にやさしい言葉をかけてあげる。そのやさしい言葉が私たちを阿修羅の姿から、心を平安に戻してくれるのです。

さて、正義の恐ろしさというのは、自分が正義だと思つくと、

ためらいなく、相手を傷つけて

しまうことです。典型的なのは戦争や、民族紛争、宗教戦争

です。どんな戦争も、自分の正義を主張します。そして、敵を滅ぼすのは善いことだと教育して戦地に送ります。その結果、

敵対する勢力に対して、考えられない残酷な行いをしてしまつことになるのです。

お釈迦さまは争いのない世界を「兵戈無用」と教えられ、親鸞聖人は「善悪の二つ 総じて

もつて存知せざるなり」とおつしやつています。怒りは自己を正当化し、正義になりすまそうとします。正義の持つ恐ろしさをよく自覚し、心にほんの少しの優しさをもちたいものです。

すから、その主張は正しいので